

第2回東近江市総合計画審議会 【会議録要旨】

■日時：令和7年5月21日（水）午後2時から午後3時45分まで

■場所：東近江市役所317・318会議室（新館3階）

■出席者：計23名

委員 16名（欠席者4名）

深尾昌峰委員 矢島之貴委員 向 春美委員 原 英児委員 井上由美委員
安田 剛委員 村田吉則委員 増田伊知郎委員 山崎 亨委員 大塚ふさ委員
白銀研五委員 青地弘子委員 上坂よう子委員 谷川尚己委員 長谷川嘉彦委員
藤田明男委員

（欠席者：谷川裕一委員 湯ノ口絢也委員 堤 洋三委員 筒井 正委員）

事務局 7名

企画部 部長 中堀智之 次長 古川暁
政策推進課 課長 上林亜紀 課長補佐 福井敦教 係長 小杉武史
株式会社地域計画建築研究所 石井 高瀬

1 開会

事務局	○お忙しい中御出席いただき感謝する。只今から、第2回東近江市総合計画審議会を開催する。 ○今年度の事務局職員を紹介する。企画部長は中堀、企画部次長は古川である。政策推進課からは、課長の上林、課長補佐の福井、係長の小杉が出席している。併せて、本日は計画策定支援事業者も同席していることを了承願う。
会長	○只今より、第2回総合計画審議会を開催する。 ○急に思いのほか暑くなり、気候変動が暮らしの中でも実感できるようになった。総合計画の中でも東近江の豊かな自然を活かすという視点が一層大事になると考える。参加の皆様に力添えいただきたい。

2 議題（進行：会長）

(1) 各種計画及び策定スケジュールについて（資料2-1、2-2）

・事務局より資料2-1、2-2の説明

会長	○今の説明について質問・意見等があれば伺いたい。
委員一同	（質問・意見なし）
会長	○日程が追加となるとのことで、各委員忙しいとは存ずるが、万障繰り合わせの上参画いただきたい。

(2) 第3次東近江市総合計画の体系について（資料3）

(3) 第3次東近江市総合計画基本構想（案）について（資料4）

・事務局より資料3、資料4の説明

会長	○計画体系、基本構想案は各委員の意見を反映できる段階である。 ○20年後の東近江市がどのようなであればよいかを考えて、そこからバックキャストで基本構想に盛り込む必要がある内容について検討することが必要である。 ○構想の前段は現状と課題、後段は今後のビジョンとなっている。まずは第2部の現状と課題が書かれている部分について、気づいた点や抜けている点について意見をいただきたい。
委員	○合併から20年が経過しているが、旧市町の団体が残っているなど、過去の弊害が改善されていない。旧市町間の連携がうまく図られていないことで災害時に市がしっかり機能しないのではと危惧している。今後は過去20年間で補うことができなかった合併による弊害等の部分についても考えることが必要である。
会長	○合併後20年が経過し、ガバナンスの考え方は重要である。それぞれの市町の利点については磨き続ければよいが、課題はまちづくりや市政運営の観点から合理的に整理し、災害時の対応等も考えるべき。
委員	○P. 17の4行目の環境について、ネイチャーポジティブの理念に基づいて地域資源を持続的に利用可能な社会を目指すということは重要であるが、「ネイチャーポジティブの理念に基づいた地域資源の持続的利用の実現」といった表現に修正が必要である。
会長	○例えば、子育てに関する部分を東近江市の実情に即した書きぶりにできないか。P. 14子育ての箇所などは他市の課題といわれても違和感がない。一般的な課題ではなく、もう少しまちに即して解像度を上げ、まちづくりの現状、課題を盛り込んだ表現が必要。そのような観点も含めて気づいた点があれば、意見をいただきたい。
委員	○人口が20年後には約1万人も減少する。将来色々な施策を実施し、それを頑張る「エンジン」にあたる部分についての記載はあるが、「ガソリン」にあたる税収の確保について記載がない。具体的な方法を明記してほしい。
会長	○20年後を見通して少子高齢化などでまちの様相がかわっていく中で、社会の仕組みに限界が見え始めている。P. 20への課題認識の落と

	し込み方は重要であり、そのために変更が必要な部分も出てくると思われる。財源の確保も含めた具体的な方法について、課題として出されていてもよいのではないか。
委員	○P. 16の人権について、最近はより複雑かつ多様なことが起こっており、背景も含めて課題として挙げることが必要である。
会長	○人権については、近年と一昔前では時代性も含めて変わっており、問題が非常に複雑化している点についても書き込むべきとの指摘である。
委員	○P. 14以降に書かれている課題は、一般的だと感じる。市民や事業者から得られた意見とは少し乖離しているように感じる。 ○P. 23-P. 27について、人口減少下での行政サービスの高度化等についてデジタル活用に関する記載がないことに疑問を感じる。 ○P. 20についても、今後20年でA Iが当たり前になる中で、デジタルに関する課題はないのか、気になる。
会長	○D Xを推進した先の未来をどのように考えるか。A Iを導入して便利になれば、一方で取り残される人も出てくる。それに伴って人材育成のあり方や人のマネジメント方法、持つべき素養等が変わってくる。人権の問題も大事になってくる。行政経営に関して企画総務に限定されている意図についても検討が必要。A Iやデジタルを用いて豊かさ、賑わいをどのように実現していくかは人間性が問われる。
委員	○教育の立場から P. 12、P. 13の様々な課題に向けて、参考にしたヒアリング、アンケート内容について、「～必要」、「～したい」という様々な表現の語尾でまとめられている点が気になる。 ○これまで教育に係るアンケートはなかったのかが気になる。東近江市では、特別支援教育や不登校、いじめ、保護者対応、外国人の子どもへの対応など、学校現場は多くの課題への対応に追われている。市としてそういった課題に取り組む必要があるのではないか。
会長	○ワークショップで出た意見などをこのまま記載してよいのか。意見内容についてはこの書きぶりでもいいが、市民・事業者の声を現状課題としてまとめてしまっているのか。実際は教育現場の声もあったかもしれない。ワークショップやヒアリングはあくまで限定的なので、計画上の位置づけでは、そこに責任を被せているようにもみえる。文章でのフォローがないと素材だけがあるような印象にみえるので調整が必要である。

委員	○市内にある県立養護学校の子どもたちを見ていると、近年の医療の発達によって早期発見等で障害をより軽減したりすることはできないものかと考えることもある。20年の計画であるなら、そうした視点でのまちづくりも必要ではないか。
会長	○表現は難しいところがあるが意図は分かる。高齢者医療においても、元気で健康寿命を延ばすことを目指していく中で、医療に関わらなくても良い環境の実現を目指すことやそれに対するデジタル化の影響は考えられる。社会的弱者と呼ばれるような人々をそういった枠に当てはめず、全員が生き生きと幸せに暮らせるまちづくりを考えていくことは重要である。
委員	○滋賀県は以前から障害児に対してフォローが手厚い。近年は、見えにくい障害で判断がつかないようなことも多い。差別につながらないような共生社会をどのようにつくっていくかという観点で考える必要がある。自身も知的障害者施設で就労支援をしており、障害のある人たちが次の職場に移れるように支援をしているが、現時点ではなかなか難しいところがある。彼らを自然と受け入れられるような社会をつくっていく必要がある。
会長	○地域共生社会をどう捉えるかが重要である。今までは対応ができていなかった発達障害も含めて分かるようになってきたことで区別や差別につながった面もある。そういった人たちに配慮しながら、共生社会の中で様々な世代の人々がどうすれば幸せに暮らせるか、どう学んでいくのか注意が必要である。
会長	○P. 21以降の基本構想について、例えば P. 24の最初の部分について推進主体に係ることに重点を置いて書かれすぎているので、そこから20年後にどういったまちを目指していくのかが分かりにくい。「図る」や「推進する」といった言葉が並んでいるが、その結果としてのまちの姿が見えづらくなっている。その辺りも含めて「現状を踏まえ20年後はこうありたい」というところを P. 21以降で皆さんから意見がほしい。
委員	○P. 24最初に記載のある「安心して子どもを健やか」というところで、ここに書く必要があるかは微妙であるが、例えば、オーストラリアでスマートフォンの問題が取り上げられており、ある小学校では親と一緒にスマホの使い方を考える取組を行っている。スマホの弊

	害が脳の発達にも影響が出るとの報道もある中、スマホについてどのように考えればよいのか。 ○昨今トランプ大統領の発言等が取り沙汰されている中で、大人数が収容可能なシェルターのようなものを非常時の安全対策として考えておく必要はないのか。国の対策として片づけておいてよいのか。
会長	○人間の感性や感受性を育むことが大事になってくるということもある。現状でスマホを取り上げるという観点は考えづらいが、「子どもたちの感受性や創造性を豊かにするために自然などの地域資源を生かしてバランスよく・・・」といった文脈が考えられる。
委員	○子育てと高齢者に関する記載はあるが、20年後の東近江市を支えていくのは今の子どもたちであるので、その子どもたちに対する課題と目標についても記載が必要ではないか。自身はスポーツに関わっているが、子どもの数が減っている中でこれから中学校の部活動が成り立たなくなってくると思われる。それをどうやって解決していくのかを考えると、一つの手段として地域で教育、スポーツ、文化をみていくことが大切。そういったことも記載してもらいたい。
委員	○具体的なことではないが、市内では地域差が大きいと感じる。人口減少についても、八日市地域でもこれまで以上に人口減少が進むと思われる一方で、団地が整備されれば、その地域は人口が増加する。ただ、また年月が進むと過疎化するような循環になるのではないか。計画は3年～4年に一度の見直しがあるようだが、そういった状況も踏まえてもらいたい。
会長	○先ほどの一般論的な課題とも共通するが、東近江市が抱える課題を細分化して、計画内にどのように位置付けていくかを考えることは重要である。 ○P. 23基本方針2について、冒頭に記載のある「出会いから結婚」という言い方はどの世代にも当てはまる訳ではないので、もう少し書きぶりを考えるべき。今のこどもたちが20年後に東近江市を担っていくにあたり書くべきことは他にないか、想像力を働かせることが必要である。
委員	○基本方針1、2に質の高い暮らしや住みたいと実感できるまちという表現があるが、そのために必要なことを考えると、最も重要であるべき要素で欠けてはいけないのは心の豊かさではないか。

会長	○口頭で豊かさを説明する際には、きちんと補足を入れるべき。心の豊かさを実現するための生活基盤として経済的な豊かさを説明することも大切である。
委員	○東近江市は外国籍の子どもの割合が全国平均の倍であり、特別支援学校の障害がある子どもの数も増えている。今後の20年間でそういった子どもたちが成長して働いて定住する方向で技術を使うのか、流動性を高めて、様々な人が生活できる空間を整備していくのか、議論になるのではないかと。技術をどのような方向性で使うのかは、抽象的な理念を振りかざすより具体的な方向を定める必要があると考える。
会長	○最近では共生社会とテクノロジーについて、テクノロジーと自治や民主主義といった議論がある。先ほどの豊かさの実感やガソリンの話との関係でどうやって機能させるかについて総合的に考えていくことが必要である。
委員	○基本方針2について、質の高い暮らしの実現は結婚や妊娠をしなければならないのか。書き方が気になる。
会長	○出会って結婚することが質の高さにつながるというようなニュアンスで伝わってしまう可能性があるため、書きぶりの修正が必要である。
委員	○これからの20年は違いを見つける、知ることを打ち出していくことが必要。外国の方をみていると、互いの文化や言葉などの違いを知ることによって、逆に東近江の良さがわかるというところがある。合併した市町についても、一様にするだけを考えるのではなく、同様に互いの違いを知る、楽しむということを重要視するべき。産業分野についても異なる事業の掛け合わせで色々な発展があると思われるので是非考えてもらいたい。
会長	○合併後の無駄を省く合理化の話と多様な文化性、市民性、産業構造、高齢化の進展度合いの違いは多様性の中で補完しながらよいまちになっていくという点では矛盾しないので両立させていければと思う。 ○まちづくりの目標が基本計画的な要素になっているので、再度整理する中で政策ごとのタイトルに将来の状態が明らかになるような内容を追加し、そのために推進すべき施策が紐づいていることが望ましい。

	○施策は粒度が細かすぎると計画を縛りすぎてしまう面があるので、その描き方を工夫することや、現状色々なレベル感が混ざり合っている所以で整理が必要である。抽象度が高くてもよいので20年後の目指すべき姿を端的に説明し、施策の大きな方向性が見えるとよい。 ○現在の計画は連続性の中でのギャップが見えないので、20年後の目標からバックキャストで計画に落とし込みにくいように思える。すでにエッセンスは入っていると思うので、その辺りについてまとめ方や表現の仕方について整理が必要である。
委員	○今後20年で単身世帯は増加傾向にあると考えられ、結婚されない方、同居しない方など、「おひとりさま」が増える中、相互に支え合うということはどういうことか考える必要がある。 ○少子高齢化が進む状況では誰が誰を支えるかが見えづらく、個人の自立が求められる。年を重ねるとできないことや健康に対する不安が増えてくるが、自分自身が健康なうちにどのような将来を見定めるかということは重要であり、高齢で元気に歩くことができるだけでも若者への貢献になると考えている。 ○20年後はA I、デジタルの世界であると思うが、心身ともに健康で過ごして元気に歩き続けられる施策を積極的に検討すべき。誰もが健康で、元気なお年寄りが多いまちを目指すべき。
会長	○将来を担う若手世代が議論したり考えたりする機会はあったのか。
事務局	○昨年度庁内ワークショップで若手職員が議論する機会を設けた。
会長	○大学で20年後の計画を同世代や自分より下の世代だけで作成したことがある。現在作成から6年が経過し、じわじわと効果を実感し始めている。その時の参加者がそこでの議論をベースに様々なところで行動したり、つながったりすることで目指すべき指針が明確になってくる。そういった機会を通じて主体性は与えられるものではなく、自分自身で切り拓いていくものであるということを全体で共有できるかが重要である。東近江市でも今の30～40代の人々が50代になるに当たって、そのような議論をできる機会を設けていくことは考えられる。
会長	○多くの意見をいただいた。すでにシートは作成しているので、今日言えなかったことや整理のつかなかったこと等は後から書き込んで提出してもらいたい。20年後の社会を見通すことは難しいが、そこを目

	指していくにあたって方向性を示していくことは重要であり、見直しまでの少なくとも10年間は、指針として旗を立て続けることに意味がある。あまり抽象度が高いと一般的になり、逆に細かいと縛ってしまうという加減の難しさはあるが、いい塩梅で取りまとめができればと思う。引き続き、様々な意見をいただきたい。
--	---

3 その他

- ・事務局より資料5の説明。

会長	○今説明の通り様式等、手段は問わないので、事務局にご意見いただければと思う。
----	---

4 閉会

会長	○閉会にあたり、副会長から閉会の挨拶をしたい。
副会長	○昭和29年の昭和の大合併によって八日市市になった時に、地域が一つに感じられないという気持ちがあった。その後、東近江市になった時にも同様に感じ、改めて向き合わなければならない問題であると感じる。最近は会社において従業員の愛社精神、絆、関係性を表す言葉としてエンゲージメントという言い方をするが、今回の基本構想の中でも「人」が重要と考えており、会社組織が職員一人一人で成り立っているように、東近江市も市民一人一人で成り立ち、住んでみたい、働いてみたい、住んでよかった、働いてよかったと思えるような市になればと思う。これまで住んできた20年は短い、これからの20年は長いのでよい未来へとつなげていけるよう今後も意見交換をいただきたい。

- ・司会進行を事務局に返す。

事務局	○部長から挨拶申し上げる。
部長	○特にまちづくりの視点について、多くの意見を賜り、今後計画を策定するにあたり非常に重要な意見であったと認識している。今年度は計画作成にあたって多数の議論の場を設けている。次回以降は、修正案、基本計画案、各施策内容を御議論いただきたい。今後もまちづくりの方向性について引き続き委員の意見、提言を賜りたい。
事務局	○以上で、第2回東近江市総合計画審議会を閉会する。 ○次回は7月4日(金)14時から開催するので、出席をお願いする。

閉会